

裁判所構成法戰時特例中改正法律案特別委員會會議事速記録第一號

付託議案

○裁判所構成法戰時特例中改正法律案
○戰時民事特別法及戰時刑事特別法中改正法律案

委員氏名

- 委員長 男爵渡邊 修二君
- 副委員長 子爵高木 正得君
- 委員 公爵岩倉 具榮君
- 伯爵山本 清君
- 子爵大河内輝耕君
- 光行 次郎君
- 入江 實一君
- 黒崎 定三君
- 男爵北大路信明君
- 富田 健治君
- 中島徳太郎君
- 岩田 三吏君

昭和二十年六月九日(土曜日)午後一時九分開會

○委員長(男爵渡邊修二君) ソレデハ

裁判所構成法戰時特例中改正法律案外
一件ノ特別委員會ヲ開會致シマス、司
法大臣ヨリ本案ノ御説明ヲ伺ヒマス
○國務大臣(松阪廣政君) 先ヅ最初ニ
裁判所構成法戰時特例中改正法律案ニ
付テ御説明申上ゲマス、本法律案提案
ノ理由ニ付キマシテハ、既ニ本會議ニ
於キマシテ申上ゲテ通リデアリマスガ、
尙其ノ内容ニ付テ敷衍シテ御説明致シ
タイト存ジマス、今回改正セムト致シ
マスル要點ハ五點デアリマス、第一點
ハ裁判所ノ設立、廢止及管轄區域ニ
其ノ變更ニ關スルモノデアリマス、是
ハ本法案ノ第一條ノ二ニ規定スル所デ

アリマス、裁判所構成法第四條ノ規定
ニ依リマスレバ、是等ノ事項ハ法律ヲ
以テ之ヲ定ムベキモノトセラレテ居
リマスガ、戰局ノ進展ニ伴ヒマシテ交
通、通信、人口狀況ノ變化等ニ應ジマ
シテ、之ヲ急速ニ變更セシムルノ途ヲ拓
キ置クガ爲ニハ、是等ノ事項ヲ勅令ニ
委任スルヲ適當ト考ヘマスノデ、茲ニ
此ノ點ノ改正ヲ爲サントスルノデアリ
マス、第二點ハ裁判所ノ判事ノ代理ニ
關スルモノデアリマス、是ハ第一條ノ
三ニ規定スル所デアリマス、判事ハ自
己ノ意ニ反シテ轉所ヲ命ゼラル、コト
ガアリマセヌカラ、一旦、或裁判所ノ
事務が突發的ニ増大セル場合等ニ、他
ノ裁判所ノ判事ヲ其處ニ轉所セシメ
テ、之ニ應ズルノ途ハ、著シキ制約ヲ
受クルノミナラズ、最近ノ情勢ハ一裁
判所ノ判事多數が同時ニ職務ヲ執ル能
ハザルノ事態ヲ生ズルノ虞ナシト致シ
マセヌ、現行裁判所構成法ハ或程度、
一ノ裁判所ノ判事ニ他ノ裁判所ノ判事
ノ代理ヲ命ズルノ制度ヲ設ケテ居リマ
スガ、之ヲ以テシテハ、到底現在ノ情
勢ニ即應スルノ態勢ヲ備フルコトガ出
來兼ズルノデアリマスガ故ニ、此ノ際
同一控訴院ノ管轄區域内ニ於キマシテ
ハ、控訴院長ニ對シ必要ニ應ジ一ノ裁
判所ノ判事ニ他ノ裁判所ノ判事ノ代理
ヲ命ズルノ權ヲ與ヘムトスルモノデア
リマス、第三點ハ裁判所書記ノ職務ノ
代行ニ關スルモノデアリマシテ、是ハ
第八條ニ規定スル所デアリマス、現行
法ノ下ニ於キマシテハ、開廷其ノ他裁
判所、判事又ハ檢事ノ行フ一定ノ職務

ニ付キマシテハ、裁判所書記ヲ立會セ
シムベキモノトシ、調書ノ作成等ハ裁
判所書記ノ職務トセラレテ居リマス、
右ハ裁判手續ノ公正ヲ擔保スルノ作用
ヲモ有スルモノデアリマスガ、近時應
召等ニ依ル書記ノ不足、或ハ戰災等ニ
因ル缺勤或ハ關員ノ補充難等、裁判事
務ノ運行ニ影響ヲ及シツ、アリマス、
仍テ其ノ對策ト致シマシテ、裁判所書
記差支ノ爲、其ノ事務ヲ取扱フコト能
ハズ、且現行法認メテ居リマスル司
法官試補ヲシテ臨時ニ書記ノ職務ヲ取
扱ハシムルコトモ出來ヌ場合ニ於キマ
シテ、手續ノ遲延ヲ來スノ虞アリマス
ル時ハ裁判所、判事又ハ檢事ヲシテ、裁
判所書記ノ立會ナクシテ其ノ職務ヲ行
ハシメ、斯カル場合ニ於テ調書ノ作
成其ノ他ノ職務ハ、判事又ハ檢事自
身ヲシテ之ヲ取扱ハシメムトスルモノ
デアリマス、第四點ハ裁判所ノ職務
ヲ行フ場所ニ關スルモノデアリマス、
是ハ第九條ニ規定スル所デアリマス、
現行法ノ下ニ於キマシテハ、開廷ハ裁
判所ノ廳舍内ニ於テ之ヲ行フモノトシ
ラレ、唯裁判所ノ限リマシテ或制限
ノ下ニ開廷其ノ他ノ職務ヲ裁判所ノ廳
舍外ニ於テモ行フコトガ裁判所構成法
第三百三條ニ依ツテ認メラレテ居リマ
ス、併シ最近ノ戰災ノ來襲ノ情況ニ徴
シマスレバ、裁判所廳舍内ニ於テ其
ノ職務ヲ行フコト能ハザル場合ヲ生ズ
ルト思ハレマスノデ、裁判所廳舍外ノ
適當ノ場所ニ於テ其ノ職務ヲ行フコト
ヲ得ルノ途ヲ拓キ置クノ必要ガアリマ
ス、仍テ司法大臣又ハ其ノ委任ヲ受ケ

タ控訴院長若シクハ地方裁判所長ニ、
此ノ點ニ關スル現行ノ制限ヲ緩和スル
ノ權限ヲ與ヘ、廳舍外ニ於テモ適當ノ
場所ニ於テ其ノ職務ヲ行ハシムルコト
ガ出來ルヤウニ致シタイノデアリマ
ス、第五點ハ法服其ノ他ノ服制ニ關ス
ルモノデアリマス、是ハ第十條ニ規定
スル所デアリマス、現行法ニ依リマス
レバ、裁判所ノ公開シタル法廷ニ於テ
ハ判事、檢事、裁判所書記及辯護士ハ、
一定ノ服制ニ從フベキコトヲ裁判所構
成法第十四條ニ規定シテアルノデア
リマスガ、戰災等ノ理由ニ依リテ法服
ヲ燒失シタル場合新タニ之ヲ作ルコト
モ現實ニ容易デナイノデアリマシテ、
此ノ制度ノ實行困難ナル事例ヲ生ジテ
居ルノデアリマスカラ、之ヲ緩和セム
トスルモノデアリマス、以上改正ノ
要點デアリマスガ、尙裁判所構成法戰
時特例ハ勅令ヲ以テマシテ臺灣ニモ施
行セラレテ居リマス、處ガ、今回改正
正中ニハ臺灣ニ於テハ本改正ヲ俟タ
ズ律令ニ於テ既ニ之ヲ實施シテ居ルモ
ノデアリマスシ、又服制ノ制限規定ハ
臺灣ニハ存シテ居リマセヌカラ、是等
ノ諸點ハ臺灣ニ於テハ之ヲ適用セザル
モノト致シタイノデアリマス、次ニ戰時
民事特別法及戰時刑事特別法中改正法
律案ノ提出ノ理由ニ付キマシテ、更ニ
敷衍致シテ御説明申上ゲタイト思ヒマ
ス、戰時民事特別法ノ改正ノ要點ハ二
點ゴザイマス、第一點ハ裁判所方適當
ト認ムル時ハ、專屬管轄ノ定アル訴訟
ニ付キマシテモ、土地管轄ニ關スル規定
ニ拘ラズ、申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ

訴訟ノ全部若シクハ一部ヲ他ノ裁判所
ニ移送シ、又ハ自ら裁判スルコトヲ得
ルノ途ヲ拓カムトスルモノデアリマ
ス、專屬管轄ノ定ナキ事件ニ付キマシ
テハ、戰時民事特別法第四條第一項ニ
於キマシテ、廣ク此ノ便法ヲ認メテ居
リマスガ、專屬管轄ノ定アルモノニ
付キマシテハ、從來之ヲ認メテ居ラナ
イノデアリマス、併シナガラ疎開又ハ
戰災等ノ爲、人ノ住居ノ異動激シク、
固定シ難キニ拘ラズ、專屬管轄ノ定ア
ル訴訟ノ解決ハ、一層迅速ヲ要スルモ
ノアリト考ヘラレマスノデ、此ノ際專
屬管轄ノ定ナキ訴訟ト同様ニ定アル訴
訟ニ付キマシテモ、管轄ノ嚴格性ヲ緩
和致シマシテ、事件ノ迅速處理ニ便宜
ナル裁判所ヲシテ之ニ當ルヲ得シメム
トスルモノデアリマス、第二點ハ登
記簿ノ滅失シタル場合及既ニ登記シテ
アル建物ソレ自體ノ滅失シタル場合ニ
於キマスル登記手續ニ關シ、勅令ヲ以
テ特例ヲ設ケ得ルコトトセムトスルモ
ノデアリマス、即チ戰災等ニ因リマシ
テ登記所ニ被害ガアリ、登記簿迄モ滅
失シタルモノハ、今日迄致傷所ニ及ン
デ居リマス、此ノ場合ニハ回復登記ヲ
致サセルノデアリマスガ、其ノ期間中
ニ新タル登記ノ申請ガアリマスル
ト、假設登記簿ニ登記スルコトト相成
ツテ居リマス、併シナガラ此ノ制度ハ
資材、勞力ノ不足シテ居ル現今デハ、
之ヲ簡易化スルノ要アリト考ヘルノデ
アリマス、尙空襲等、戰爭ニ起因スル
災害又ハ疎開ノ爲ニスル建物ノ除却ニ
因ツテ滅失シタル建物ノ滅失登記ハ、

當事者ノ申請ヲ俟ズシテ、防空業務ヲ所管スル地方長官ノ通知ニ依ツテ之ヲ爲スコトヲ致シタルト考ヘテ居リマ...

付シテ之ヲ爲スコトヲ得ルノ途ヲ拓キ、此ノ場合ニ於テハ書類ヲ郵便ニ付シタル時ヲ以テ、辯護人ニ對スル書類...

キ時ハ、其ノ期間ト同一ノ期間ダケガ法律上當然ニ伸長セラル、ノデアリマ...

スルモノデアリマス、第六點ハ今議會ニ提出ノ、先程述べマシタル裁判所構成...

判所ガ該書類ヲ受理シタルキニ於テモ之ヲ有效ト致シマシテ、以テ被告人ノ便宜ヲ圖ラムトスルモノデアリマス、...

幾ラカ突棒ヲ緩クスル、今迄釘ヲ三本打ツテ置イタ所ヲ二本ニスルト云フヤウナ嫌ヒガナイコトハナイ、之ニ依リマシテ私ノ希望スル所ハ餘程司法官憲、廣クシテハ政府全體ハ、司法權ノ獨立ノ爲ニシテカク腹ヲ据エテ裁カナケレバ非常ナ弊ヲ生ジハシナイカ、我モ此ノ法律案ヲ協賛スルニ付キマシテハ、特ニ其ノ點ニ付テ司法省ノ、司法大臣ノ御決意ヲ點テ何ツテ置ク必要ガアラウト存ジマス、此ノ點ヲ伺ヒタイノデアリマス、尙委員長ニ御願ヒ致シテ置キマスガ、私ノ質問ハ、政府ノ答辭ハ無論デゴザイマスガ、私ノ質問ハ或ハ速記録ヲ公開スルコトガイカスト云フヤウナコトガゴザイマシタラバ、ドウゾ御遠慮ナク御指摘ヲ願ヒマス、其ノ場合ハ速記録ヲ公表スルコトハ止メニ致シテ置キマス、無論止メマスガ、其ノ止メ方ノ形式上ノ整理ニ付キマシテハ、私モ御話ヲ願ヒタイト存ジマス、斯ウ云フ前提ヲ置キマシテ質問ヲ致シマス、ソレデ司法權ノ獨立ノ問題デアリマスガ、ドウモ司法權ノ獨立ト云フモノハ近頃疑ハレテ來タ、是ハ私ノ考デハ外來思想、殊ニ司法權ノ獨立ナラバ認メナイ「ナチス」ノ思想ノ影響ヲ存ジマス、此ノ經過カラ申サナケレバナリマセヌ、ソレハ何故ニ「ナチス」ノ思想ガ日本ニ入ツテ來タカ、之ニ付テハ、曾テ申述ベマシタ通りニ、或大使館ニ居ル外人ガ近衛公ヲ訪問サレマシテ、サウシテ日本ノ政治體制ヲ一ツ變ヘロト云フコトヲ言ハレタ、處ガ、近衛公ハソレヲ斷ツタ、ソナナコトハ外國ノ使臣ノ言フコトデナイト言ハレテ斷ハラレタ、處ガ、其ノ後ニ其人ガ、寺内、杉山兩大将ヲ伴ツテ行ツテ、ドウ云フ御話ガアツタカ知

リマセヌガ、其ノ兩大将ノ中カラ、陸軍ノ情勢ハ「ドイツ」ト一緒ニ行クコトニ決ツタカラト云フノデ、ソコデ初メテ日本ノ政治體制ガ決ツタ、從ツテ「ナチス」ガ受容セラレタ爲ニ、司法權ノ獨立ト云フモノハ、動モスレバ侵サレルヤウナ氣味ニナツタト云フコトハ爭フベカラザル事實デアリマス、序ニ申シテ置キマスガ、其ノ結果、米内内閣ハ崩壊シタ、是ガ總テノ、日本ノ總テノ政治ヲ議スルニハ、之ヲ除イテハ言ヘナイ語デアアル、司法權ノ獨立ガ危クサレテ來タノハ、此ノ結果デアリマス、ソレト、モウ一ツ申上ゲタイノハ、此ノ間鈴木首相ガ一個トシテノ御議論、一個トシテノ御議論ニ、ドウモ日本ニ買似道ノヤウナ者ヲ生ジテ來ルト云フノデ、サウ云フ者ハ怪シカラスト云フ御話デアリマシタ、ソレヲ受ケテレタ譯デヤゴザイマスマイガ、議長モ其ノ買似道ヲ引イテ、サウシテ總理大臣ト會見ノ際ニ、何カ挨拶ノアツタ時ニ其ノ話ヲ聽カレタト云フコトデアリマス、此ノ買似道ノコトハ、皆サン御存ジデ申スコトモゴザイマセヌガ、私ハ存ジマセヌガ、假ニ速記録ガ出ルトシテモ之ヲ讀マナイニハ分ラナイ、分ラナイ人モゴザイマセウカラ、一應其ノ事柄ヲ讀ンデ見マスガ、十八史略ノ或所ニ斯ウ云フコトガアル、庚午、咸淳六年、江萬里援兵ヲ請フテ襄ヲ救フ、議會ハズシテ罷メ去ル、襄ト云フノハ襄陽ノコトデス、元ノ兵ガ忽必烈ガ兵ヲ率中テ襄陽ヲ圍ンダ、其ノ話デアリマス、「上一日、似道ニ問ウテ曰ク、襄陽圍ミテ受クルコト三年、奈何、對ヘテ曰ク、北兵已ニ退ク、陛下何人ノ言ヲ得ル」ト、陛下ガ三年圍ミテ受クルト云フコトハ誰カラ御聽キナリ

マシタカト言ツタ、「上一日」天子デス、南宋ノ度宗皇帝デアリマス、「上一日」適、女嬋有ツテ之ヲ言フト、女嬋ハ女官デス、「詰問シ、誣フルニ、佗事ヲ以テ死ヲ賜フ、是ヨリ敢ヘテ邊事ヲ言フ者無シ」、斯ウ云フコトガアル、此ノ襄陽ハ遂ニ陥ツタデアリマス、斯ウ云フ嘘ヲ皇帝ニ上奏スルヤウナ者ハ怪シカラヌ者デアアルト云フコトヲ鈴木總理ガ言ハレタ、無論日本ニサウ云フ人ガアツタ譯デアリマスマイガ、斯ウ云フコトハ斷シテ爲スベキデナイト云フコトヲ言ハレタ、斯ウ云フコトヲ前提トシマス、サウシテ後ハ司法權ノ獨立ノ話ニナリマスガ、此ノコトニ付テハ例ヲ三ツバカリ引クノガ一番宜カラウト思ヒマス、第一ノ例ハ鹿兒島ノ選舉デアリマス、鹿兒島ノ選舉ハ無効ニナリマシタガ、其ノ願末ハ申シマセヌ、唯、私ガ何ヒタイノハ、之ニ對シテ何人ガ責任ヲ負ツタカ、其ノコトヲ伺ヒタイ、ソレハ成ル程選舉ハ無効ニナリマシタ、併シ斯ウ云フコトヲシタ官憲ハ懲戒デアルトカ、或ハ相當ナ方法ヲ執ラレナケレバナリマセヌガ、一向サウ云フコトハ聞カレナイガ、ソレハ懲戒スル價值ガナイト御認メナノカ、之ヲ價值アリト御認メナラバ、是々ノ者ヲ懲戒シタト云フコトヲ伺ヒタイ、第二ハ渡邊鐵藏博士ノコトデアリマス、渡邊鐵藏氏ハ事實ヲ事實トシテ述べタニ過ギナイ、詰リ買似道ノ女嬋ニ當ル者デアアル、事實ヲ事實トシテ述べタニ過ギナイ、米國ノ軍艦ガ「マイナス」ニナルト云フコトハ思ヒモ寄ラヌ、是ハ發表ガ信ズベカラズト云フコトハ當リ前ノ話デアアル、ソレデアアルカラサウ云フ方ノ意見ニ付テハ襟ヲ正シ

ウシテ聽カレルノガ當リ前ノニ之ヲ刑ニ處シテシマツタ、マルデ「誣フルニ、佗事ヲ以テ死ヲ賜フ」ト同ジコトデアアル、ソナナコトモアルカラ、近頃ハ誠ニ申上ゲニクイケレドモ、何ヲ言ツテモ駄目ダト云フ風ニ皆ガ考ヘル、デスカラ、是レヨリ敢ヘテ邊事ヲ言フ者無シ」ト云フコトニ當ル、サウ云フ熊勢ガ日本ニハ遺憾ナガラアリマス、ソレデ私ノ伺ヒタイノハ、渡邊博士ヲア、云フ風ニ處斷サレタノハ如何ナル法律上ノ根據デアアルノカ、事實ノコトヲ言ツタノハ、流言飛語トハ言ヘナイと思フ、第二ニ伺ヒタイノハ、某元駐英大使ノ話デアリマス、名前ハ申上ゲナイデモ御分リデアリマセウ、此ノ人ガ起訴ニナツタトカ、或ハ何ダトカ云フ話デアリマス、其ノ話ノ内容ヲ私ガ伺ツタ所ニ依ルト、是ハ質問ノ便宜上申上ゲルノデ、必ズシモ斯ウダカラト云フコトハ申上ゲナイ、承ルト云フト、其ト方ハ和平論ヲ唱ヘタ、而モ英國ニ依ツテ和平ヲシヨウ、「ソ」聯ノヤウナ國ハ共產主義デアアル、オマケニ日米相戰フコトヲ望ンデ居ルノデアアルカラ、コトナモノヲ相手ニシテハイカヌノダ、斯ウ云フモノヲ相手ニシタツテ仕様ガナイ、ソレデアアルカラ英國ニ於テ相手ニスル、殊ニサンフランシスコ會議ニ終局ニ近附イテ居ル、是ガ終局ニナツテシマツタラ手遅レダカラ、其ノ前ニ相當手ヲ盡サナケレバイカスト言ツテ努力セラレタノデアアル、尙又國內態勢モ今日ハ外交ヲ強化スルニ付テ、國內何人ニ言ツタラ宜イノカ、政府ニ言ツタラ宜イノカ、或ハ又外ニアルノカト云フコトヲ國內モ國外モ迷ツテ居ル、コトナコトデアリカヌカラ、是ハ政府ニ

統一シテ政府以外ノ人達ノ勸誘ヲ避ケル、ソレデ行クベキダ、斯ウ云フコトヲ言ハレタノダラウト思ヒマス、ソレデ何デ起訴ニナツタノカ存ジマセヌガ、承ル所ニ依ルト、何カ戰意ヲ緩メタトカ何トカ云フコトノヤウデス、是ハ特別ノ法律ガ出テ居リマス、其ノ法律ヲ協賛サレル場合ニ、我々ガ説明ヲ承ツタ所ニ依ルト、是ハ反戰或ハ厭戰ヲ言フノダト云フノデ、色々ナ例ヲ示サレタノデス、ソナナ例ニアルヤウナモノハ、是ハ斷シテ許スコトガ出來ナイ、立派ナ反戰思想デアアルカラ、コンナ者ハイカスト云フノデ、我々モ之ヲ喜ンデ贊成シタ、處ガ、元某大使ノ言フ所ニ依ルト、反戰思想デモナケレバ、厭戰思想デモゴザイノデ、唯、一片ノ外交論ニ過ギナイ、戰爭ガ長クナレバ、モウ此ノ位デ止シタラ宜イデヤナイカト云フヤウナ議論ノ起ルノハ當然ナコトナラデス、ソレヲ渡邊博士モ言ヒ、元某大使モ言ヒ、人ノ前デ演説シタ譯デモ何デモナイ、唯極ク懇意ナ人ニ言ツタト云フダケデ斯ウ云フコトニナルト云フノハ、ドウモ司法權ノ獨立ト云フコトガ疑ハシイ、殊ニ司法官憲バカリデヤナイ、陸軍官憲ガ關係シテ居ルヤウダ、ドウモ陸軍官憲ト言ヒ、司法官憲ト言ヒ、立法ノ趣旨ヲ尊重スルコトガ甚ダ不十分デアリハシナカツタカト云フノデ、ソレデ長々ト述べマシタガ、歸スル處、先ヅ第一ニ伺ヒタイノハ、渡邊博士並ニ元某駐英大使、是ハドウ云フ譯デア、云フ風ニ御處分ニナリマシタノカ、其ノ法律上ノ根據ヲ先ヅ以テ承リタイト思ヒマス

○國務大臣(松阪廣政君) 只今大河内子爵ヨリ司法權ノ獨立ニ付テ御意見ガアリマシタ、獨立ノ尊重スベキ、全ク

私モ御同感デアリマシテ、甚ダ微力デアリマスルガ、私モ從來司法權ノ獨立ノ爲ニハ、制度上モ運用上モ最モ力ヲ盡シタコトデアリマスルシ、又全國ノ判事、檢察モ其ノ點コソ司法ノ生命デアルト云フノデ、其ノ爲ニハ非常ニ力ヲ致シテ居ルノデアリマス、今日司法官ニ對シ、裁判ニ對シテ、裁判ガ遲延スルトカ、或ハ又時ニ宜シクナイコトヲ言フトカ云フヤウナ非難ヲ時ニ聞コトトガアリマスルガ、司法權ノ獨立ガ阻害サレタト云フヤウナ疑惑ハ私殆ト承ラナイノデアリマシテ、此ノ點司法權ノ獨立ト云フコトニ付テハ、全國ノ國民モ固ク之ヲ信賴シテ戴イテ居ルト自分ハ信ジテ居ルノデアリマス、先程御述ニナリマシタ鹿兒島ノ選舉訴訟云々デアリマスガ、是等ノ訴訟ノ結果ヲ見マシテモ、司法權ガ如何ニ獨立シテ居ルカト云フコトガ分ルヤ私ニハ感ゼラレルノデアリマス、渡邊博士ノ點ニ付テノ御質問デアリマシタガ、是ハ既ニ起訴ニナリマシテ、裁判所ハ、言論、出版等臨時取締法違反ノ罪アリト認メマシテ有罪ニ致シ、執行猶豫ノ言渡シヲシテ是ガ確定シタノデアリマス、裁判所ガ事實ヲ認定シ、而モソレガ言論、出版等臨時取締法ニ該當スルモノト認メテヤッタコトデアリマスルカラ、之ニ對シ固ヨリ私ガ批判ヲスベキモノデナイト思ヒマス、最後ニ御述ニナリマシタ元駐英大使ノ點デアリマシタガ、是ハ私モ仄聞シテ居リマスガ、是ハ通常裁判所ノ關係ニ非ズシテ、憲兵隊ニ於テ取調ベ、軍法會議ノ法務官ノ指揮ニ依リテ取調ベラレタト云フコトヲ聞イテ居リマスガ、未ダニ起訴ニナツタト云フコトハ私ハ承知致シテ居リマセヌ

○子爵大河内輝耕君 重ネテ伺ヒマスガ、鹿兒島ノコトハ誠ニ好イ結果デゴザイマス、他ノ縣ノ選舉ニ付テハ、私ハ失禮ナガラ、減茶々々ダト思ヒマス、鹿兒島ガ無効ニナルノハ、是ハ無効ニナルベキモノダト思ヒマス、是ハ私バカリデハナイ、ミシナソソナヤウニ考ヘテ居ル、唯私ガ伺ヒタイノハ、是ハ唯司法官ノ責任ダケデハ濟マナイト思フ外ノ官憲ダツテ官憲法上相當ノ責任ヲ負フベキモノデアルト思フ、其ノ點ハ司法官ニ於テモ御承知デラウト思ヒマスガ、如何デゴザイマセウカ、ア、云フ選舉ヲヤツタニ付テ、斯ウ云フコトハ行ハレマセヌデシタカ

○國務大臣(松阪廣政君) 選舉訴訟ノ當否ニ付テハ、司法大臣トシテハ之ヲ批判スルコトヲ差控ヘタイト存ジマス

○子爵大河内輝耕君 私人申上ゲ方ガ惡カツタノデアリマスガ、其ノ當否ヲ伺フテ居ルノデアリマス、サウソレニ不都合ノ選舉ヲ爲シタ以上ハ、ソレニ干渉シタ知事デアルトカ、或ハ檢事デアルトカ色々ナ人ガアラウト思ヒマスガ、サウ云フ人達ガドウ云フ責任ヲ執ツタカト云フコトヲ伺ヒタイノデス

○國務大臣(松阪廣政君) 鹿兒島ノ選舉ニ付キマシテ、判事、檢事ノ執リマシタ處置ニ付キマシテハ、懲戒スベキヤウナ失當ノ點ハナイト認メマシテ、懲戒等ノ手續ハ致シテ居リマセヌ、知事或ハ警察部長等ニ付キマシテハ、内務大臣ニ於テソレト適當ニ調査、處置致シタコトト存ジテ居リマス

○子爵大河内輝耕君 ソレハ能ク分リマセヌガ、其ノ位ニ致シテ置キマス、今次ニ渡邊博士ノ御話デアリマスガ、今次ニ渡邊博士ノ御話デアリマスガ、私甚ダ素人デ分リマセヌガ、條文ヲ仰シヤ

ツテ載キタイト思ヒマス

○政府委員(船津宏君) 本日、正確ナ資料ヲ持ツテ參リマセヌデシタノデ、又後刻詳細ニ御答ヘ致シタイト思ヒマシテ、記憶ニ依リヤウニ、言論、出版等臨時取締法違反ヤウニ、其ノ十七條、十八條ヲ適用シタコトト考ヘテ居リマス

○子爵大河内輝耕君 チョット讀ンデ戴キタイ

○政府委員(船津宏君) 十七條ハ、一局ニ關シ造言飛語ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス、十八條ノ方ハ、一局ニ關シ人心ヲ惑亂スベキ事項ヲ流布シタル者ハ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス、斯様ニナツテ居リマス

○子爵大河内輝耕君 結構デゴザイマス、ソレカラ元駐英大使ノコトハ、サウ致シマス、ドウ云フ條文ダカ御分リニナリマセヌカ

○委員長(男爵渡邊修二君) 御諮リヲ致シマス、陸軍省ノ政府委員ガ居リマセヌノデ説明員ヨリ證明致シタイト云フコトデアリマスガ、許シテ宜シウゴザイマセウカ……御異議ナイモノト認メマス

○説明員(沖源三郎君) 只今御尋ノゴザイマシタ元駐英大使ノ事件ニ關シマシテ、政府委員ガ居リマセヌノデ説明員トシテ申上ゲマス、其ノ方ノ事件ハ、今御話ノアリマシタヤウニ反戦、和平ノコトヲ言ハレタト云フ嫌疑ヲ、憲兵隊調査ノ結果認メラレマシタノト云フト、軍事ニ關シテ造言飛語ヲシタト云フ陸軍刑法第九十九條違反ノ犯罪ガ成立スルモノト認メマシテ、而

モ、又時局ニ鑑ミシテ、軍法會議ノ手續ハ、軍ノ安寧ヲ保持スル爲必要ガアル時ニハ、一般人ヲモ軍法會議ニ裁判シ得ルト云フ、臨時軍法會議ノ手續ニ切替ヘラレテ居リマシタノデ、之ヲ軍法會議ニ送致シタノデゴザイマス、現在東部軍管區ノ軍法會議ニ於キマシテ取調ベ中デアリマシテ、只今御話ガアリマシタ如ク起訴ニナツタ等ノコトハマダ報告ニ接シテ居リマセヌ、從ヒマシテ現在マダ取調ベ中ト存ジテ居リマス、デ、果シテ左様ニ犯行ガアツタカナカツタカ、取調ベノ結果ニ俟タナケレバ分ラナイコトト存ジテ居リマス

○子爵大河内輝耕君 陸軍ノ方ニ伺ヒマスガ、サウスト、マダ起訴ニハナリマセヌカ

○説明員(沖源三郎君) 起訴ニナツテ居リマセヌ、マダ其ノ報告ニ接シテ居リマセヌ

○子爵大河内輝耕君 ソレデ大體分リマシタガ、是以上ハ議論ニナリマスカラ申シマセヌ、併シドウモ和平論ヲヤツタカラ流言語ヲ、軍ノ安寧秩序ヲ害スルトハ、我々ハ考ヘナイ、司法省ノ方デハ、別ニ是ハ御關係ガナイカラ意見モ述べル立場ニナツテ居ナイ、斯ウ云フ風ニ御考ニナリマセウカ

○國務大臣(松阪廣政君) 事、軍法會議ニ屬シテ居ルノデアリマスカラ、私カラ意見ヲ述べルコトヲ差控ヘタイト存ジマス

○子爵大河内輝耕君 斯ウ云フ風ニ之ヲ突ツイテ行ケバ、隨分材料ハ出て來マス、併シドウモ、私ノ期スル所ハ、ドウカ司法權ノ獨立ガ十分ニ守ラレルヤウニ、司法官憲ガ不統一ノコトガナイヤウニ、議會デ話ノ出タ立法ノ趣旨ハ十分ニ行ハレルヤウニシタイト云フ

コトニ過ギナイノデスガ、斯ウ云フ個ノ事件ヲ弄ツテ行クノモ惡イカラ、此ノ位デ止シテ置キマス、陸軍ノ政務次官ハ、オ見エニナツテ居リマスカ

○委員長(男爵渡邊修二君) チョットオ待テ下サイ、速記ヲ止メテ

[速記中止]

○委員長(男爵渡邊修二君) 速記ヲ始メテ

○政府委員(船津宏君) 只今、大河内子爵ノ御質問ノ中デ、渡邊博士ノ犯罪事實ノ法律ノ適用ノコトニ付テデゴザイマスガ、尙記憶ヲ喚ビ起シテ見マス、其ノ起訴事實ノ中ニハ只今御指摘ノヤウニ、大本營ノ發表ニハ僞リガアルト云フ趣旨ノコトガアツタノデアリマス、其ノ分ニ付キマシテハ陸軍軍刑法違反ノ犯罪トシテ、先程申シマシタ言論、出版等臨時取締法ノ外ニ軍刑法違反ノ起訴事實ガアツタコトヲ思ヒ出シマシタカラ、チョット附加ヘテ置キマス

○委員長(男爵渡邊修二君) 外ノ方ノ質疑ヲ始メテ、來ラレタラ後ノ御質問ヲ爲サツタラ如何デセウカ

○子爵大河内輝耕君 ドウゾ……

○光行次郎君 私ハ此ノ裁判所ノ設立、廢止及管轄區域ノ變更ニ付キマシテ、之ヲ普通議會ニ出サズシテ、臨時議會ニ御提出ニナツタ點カラ見マス、必ズヤ設立ヲシナケリヤナラヌ裁判所、又ハ廢止ヲシナケリヤナラヌ裁判所、若シクハ管轄區域ヲ變更シナケリヤナラヌ裁判所ガ具體的ニオアリナルト思ヒマスカラ、其ノ點ヲ、若シ御差支ナクバ御例示ヲ願ヒタイト思ヒマス

○國務大臣(松阪廣政君) 只今考ヘテ居リマスノデハ、現在デハ各地方行政

協議會ガゴザイマスルガ、近クソレガ
地方總監府ノ設置ヲ見ルノデハナイカ
ト思フノデアリマスガ、左様ニ致シマ
スト、四國ハ香川縣ニ現在デモ一ツノ
協議會ガゴザイマスガ、其處ヲ中心ニ
四國ヲ一ツノ「ブロック」トシテ、總テ
ノモノヲ國內體制ヲ整ヘルコトニナツ
テ居リマスノデ、此處ニハドウシテモ
控訴院ヲ協議會ノ在ル場所ニ一致セシ
メル、又管轄區域ヲ一致セシメテ置ク
必要ガアルノデハナイカト云フコトヲ
考ヘテ居リマス、又管轄區域モ、或ハ
例ヘバ靜岡縣ノ如キ、今東京控訴院ノ
管轄ニ屬シテ居リマスルガ或ハ之ヲ名
古屋控訴院管内ニモ移轉スル必要ガア
リハシナイカ、是ハ戰時情勢ニ應ジ
テ、或ハ管轄區域ノ變更ガ急速ニ必要
ヲ生ズル場合アルノデアリナイカト云
フコトヲ實ハ考ヘテ居リマス、其ノ他
又、一例ヲ擧ゲマス、群馬縣ノ太田
ニ在リマスル新田ノ區裁判所デアリマ
スルガ、是ナドハ過日モ中島ノ工場ガ
敵ノ空襲ヲ受ケマシテ、幸ニシテ裁判
所ハ燒失ハ免レタノデアリマスガ、非
常ニ建物モ日本建築デアリマシテ、何
時燒ケルカモ知レナイ、是ガ燒ケマス
ト、アノ場所ニハテヨット代ハルベキ
建物モ得ラレマセシ、又人口ノ移動
モアリマスルカ、左様ナ場合ニハ之ヲ
廢止シテ、或ハ桐生邊リニ區裁判所デ
モ設ケナケレバナラヌ必要ガ起ルノデ
ハナイカト云フヤウナコトモ考ヘラレ
ルノデアリマス、九州方面ノ空襲ヲ受
ケル場所カラ見マシテモ、或ハ區裁判
所アタリノ廢止、設立、管轄區域ノ變
更等ノ必要ナ場合ヲ生ズルノデアリ
カト考ヘマシテ、此ノ臨時議會ニ急イ
デ提出致シヤウナ次第デアリマス

○光行次郎君、是迄問題トナツテ居
タ長崎ノ控訴院ヲ福岡ニ移ス御考ハナ
イデセウカ

○國務大臣(松阪廣政君) 只今申シマ
シヤウニ、大體行政協議會或ハ地域
總監府ト申シマスガ、左様ナモノガ出
來マス場合ニハ、之ト管轄區域ヲ一致
セシムルト共ニ、是ハ政府ノ一ツノ支
部ノヤウナモノデアリマスルカ、ド
ウシテモ其處ニ持ツテ行カヌト困ル
デアリマス、左様ナ場合ニハ長崎ノ
福岡ニ移シタ方ガ宜イト云フコトモ考
ヘラレマスカ、或ハ又左様ナコトニ
ナルカトモ思ヒマス

○子爵大河内輝耕君 今ノニ關聯シテ
伺ヒマスガ、何カ福岡ニ移サナケレバ
ナラヌ軍事上ノ理由デモアルノデス
カ、ソレデナケレバ、今日サウ云フコ
トヲヤル必要ハ戰時立法タル性質ニ鑑
ミテドウカト思ヒマス、平時アラバ何
デスガ、是ハ戰時立法デ、軍事ノ必要
カラ行クノデスカ、ドウカト思フノ
デスガ、其ノ點ハ如何デスカ

○國務大臣(松阪廣政君) 是ハ敵ノ九
州ニ對スル攻撃ノ狀況等ニ依ツテ判斷
シナケレバナラヌノデアリマス、少ク
モ檢察局ハ管内ノ治安ヲ確保スルコ
ト立場カラ、大體ニ於テ行政協議會ノ
所在地、或ハ軍司令部等ノ所在地ト一
致セシムル必要ガ痛切ナルト思ヒマ
スカ、戰時ナラガ故ニ、左様ナ必要
ガ起ルノデアリナイカト云フコトヲ考
テ居リマス、併シマダ事態ガソコ迄行
ツテ居リマセヌカ、何時ドウスルト
云フコトヲ今豫メ御約束ハ致スコトハ
無論出來マセヌ

○子爵大河内輝耕君 ソレデハ政務次
官ニ對スル質問ヲ致シタイト思ヒマ
ス、先程實ハ政務次官ニ經過ヲ聽イテ
戴イテ、ソレカラ最後ニ伺ハウト思フ

タノデスガ、御用ノ御都合デ御立チニ
ナツタカラ、仕方ナク又簡單ニ繰返サ
ナケレバナラナクナリマシタ、御尋
次第ハ斯ウデアリマス、ドウモ司法省
ノ司法權ノ獨立ト云フコトハ非常ニ必
要ノコトデアアルガ、ドウモ近頃ソレガ
疑ハレテ來タ、疑ハレテ來タコトニ付
キマシテ、其ノ例ト致シマシテ、私
ハ此ノ前ノ彈壓選舉ノコト、ソレカラ
渡邊博士ニ對スル判決竝ニ某元駐英大
使ニ對スル檢舉ノコト、是ダケノ三ツ
ノ問題ヲ引キマシテ御尋ネ致シタノデ
アリマス、ソレデ大臣カラハ少シモ差
支ナイト云フ御話デアリマスカ、レド
モ、ドウモ私ハ考ヘテ見マス、是ハ
意見ノ相違デアリマスガ、サウ云フコ
トハ出來ナイ、アノ亂暴ヲ彈壓選舉ヲ
鹿兒島ダケガ無効ニナツテ、他ノ無効
ニナラナイ、甚ダシキハ不起訴ニナツ
タ、實ニ解シ兼ネル、ソレカラ渡邊博
士ノハ、軍刑法トカ、流言飛語ト云フ
ノデスカ、事實ノ事實トシテ言
ツタダケデアリマス、私ハ新聞ヲ目ノ
子ニシテ拾ツタダケデモ、「アメリカ」
ノ軍艦ハ現在數「マイナス」ガ出テ居
ル、ソレデカラ發表ハ事實ト違フデヤ
ナイカト言ツタノガ何ガ惡イノカ、是
ハマルデ買似道ノ女嬢ノヤウナコトヲ
言ツテ居ル、是ハ總理ノ大嫌ヒナコト
デ、是ハ能ク似テ非ナルコトデアアル、
ソレカラ前某大使ニ至リマシテハ、實
ニ立派ナ議論デ、和平外交論デアツ
テ、良イカ惡イカ、是ハ御議論モアル
カラ何デスレドモ、アレハ軍ノ何ヲ害
シタトカ、流言飛語デアルトカ、ソ
ナモノデモ何デモナイ、殊ニ多勢ノ方
方ヘ言ヒ觸ラシタコトモナイ、サウ云
フヤウナコトガアリマス、私トシテハ
ドウモ司法權ノ獨立ト云フコトハ今一

層注意シテ戴キタイ、併シ斯ウ云フ風
ニ侵サレテ來タト云フコトハ、侵サレ
テ來タト云フコトデアリナイガ、疑ヲ挾
マレルヤウニナツテ來タノハ、結局外
來思想ノ影響デ、是ハ米内内閣ノ崩
ラウト思ヒマスガ、是ハ米内内閣ノ崩
壞シタ事情ヲ御研究ニナレバ、ドウ外
來思想ガ來タカト云フコトガ能ク御分
リナルト思ヒマス、從ツテ陸軍當局
ト雖モ、斯ウ云フ大勢ヲ御作リニナツ
タコトニ付テハ、責任ヲ御執リニナルカ
コトト思フ、責任ヲ御執リニナルカ
ラナイカト云フコトガ第一點、第二點
ハ、何シロ斯ウ云フコトニ陸軍ガ捲込
マレルト云フコトハ、甚ダ面白クナ
イ、陸軍ガ陸軍以外ノ仕事ニ介入シテ
來ルト云フコト、結局コソナコトニナツ
テ、司法權ノ神聖モ害スルシ、軍モ迷
惑スルト云フコトニナツテ、甚ダ面白
クナイ、斯ウ云フ事實ニ鑑ミテモ、軍
ハ何處迄モ本務ニ精勵スベキデアアル、
此ノ二問ヲ伺ヒタイ

○政府委員(小山邦太郎君) 只今衆議
院ノ本會議ニ出席致シテ居リマシタ爲
ニ、重ねテ御質問ヲ煩ハスコトニナリ
マシテ、恐縮ニ存ズル次第デゴザイマ
ス、司法權ノ獨立ニ對シマシテハ、申
ス迄モナク、陸軍ト致シマシテハ日頃
強ク之ヲ主張致シテ居ル次第デアリマ
ス、例證ニ數ヘラレマシタル幾多ノ事
實ニ付キマシテハ、殘念ナガラ私其ノ
内容ヲ能ク承知致シテ居リマセヌノ
デ、此ノ際陸軍トシテ之ニ對スル所見
如何ヲ御尋ネ戴キマシテモ、直チニ御
答ヘ申上ゲルコトハ出來マセヌガ、是
等ノ取扱ニ對スル法的處置ニ對シテ
ハ、司法大臣ノ御説明ニ依リマシテ、
私ハソレニ異議ヲ持ナイ者デゴザイ
マス、尙陸軍ガ職務ノ上ニ精勵シテ他

ノ政治其ノ他ノコトニ干與スルコト
ハ、努メテ避クベキデアルト云フコト
ニ對シマシテハ、全く同感デアリマシ
テ、今日ハ殊ニ戰局極メテ重大、餘事
ニ頭ヲ用ヒテ居ル暇ハナシ、又今日ノ
戰局カラ顧ミマシテ深ク自ラノ責任ヲ
思ヒ、專ラ其ノ職務ノ上ニ全身全靈ヲ
傾ケテ、他事アルベキ管ハナイト存ズ
ル次第デアリマス、以上御答ヘ申上ゲ
マス

○子爵大河内輝耕君 大變明快ナ御答
デ有難ウゴザイマシタ、從來ノコトニ
付キマシテハ、當然責任ヲ負ハレルコ
トト私ハ考ヘテ居リマス、陸軍當局ニ
對スル質問ハ是デ終リマス、私ノ初メ
ノ質問ハ是デ全部終リマシタ

○國務大臣(松阪廣政君) 大河内子爵
カラ重ねテ司法權ノ獨立ノ尊重スベキ
所以ヲ御述ニナリマシテ、全ク其ノ
點、私御同感致スノデアリマス、此ノ
上トモ司法權ノ獨立ノ尊重維持ニハ微
力ヲ盡シタイト思フノデアリマス、尙
先刻陸軍省ノ説明員ノ御話ニナリマシ
タ常人ニ關スル軍法會議ノ裁判ノ問題
デアリマスガ、陸軍法會議第六條ニ
ハ、軍ガ安寧秩序ヲ保持スル必要ガア
ル時ニハ、常人ニ對シテモ軍法會議ガ
裁判ヲナスコトガ出來ルト云フ規定ガ
アルノデアリマシテ、斯様ナ場合ニハ
常人ニ對シテ、通常裁判所ニ於テモ裁
判ガ出來ル、軍法會議ニ於テモ裁判ガ
出來ル、雙方ニ於テ裁判所得ルノデア
リマス、併シナガラ常人ハ通常裁判所
ニ於テ、軍ノ必要ニ上安寧保持ノ必要ノ
爲ニ、特ニ例外的ニ軍ノ管轄ニ屬スル
モノト私ハ了解致シテ居リマス、從ツ
テ軍法會議ト雙方ニ互ル事件ニ付キマ
シテハ、司法省ハ常ニ軍ト能ク連繫ヲ
致シマシテ、特ニ軍ノ必要ト云フ點ヲ

裁判所構成法戰時特例中改正法律案特別委員會議事速記第一號

昭和二十年六月九日【貴族院】

五

除キマシテハ、或ルベク通常人ハ通常裁判所ニ於テ裁判シ得ルヤウニ普シシタイ積リテ、軍當局トモ連繫ヲ保チ、折衝ヲ致シテ居ルコト云フコトヲ申上デ、私共司法省ノ立場ヲ御了解願ヒタイト思ヒマス

○子爵大河内輝耕君 只今ノ御趣旨ハ、至極結構ト思ヒマスガ、軍當局モ其ノ點ニ付テハ同一ノ御趣旨ヲ解釋シテ宜シウゴザイマスカ
○政府委員(小山邦太郎君) 同様デゴザイマス

○黒崎定三君 簡單ナルコトヲテヨソト御教ヘテ願ヒタイト思ヒマス、裁判所構成法戰時特例ノ第一條ノ二ノ改正規定ハ、戰時中ダケニ限リテ、勅令デ裁判所ノ設立、廢止、管轄區域並ニ其ノ變更ガ出來ルト云フコトニナルノデアリマスガ、從ツテ戰時中云フコトガナクナレバ、此ノ勅令ヲ勅令カシ得ル餘地ハナイコトニナリマスガ、併シ戰時中此ノ勅令ガ出マシテ、或裁判所ノ設立若シテハ廢止、若シテハ管轄區域ノ變更セラレタモノガアリマシタナラバ、戰時中云フコトガナクナルト、其ノ設立、廢止、變更等ノアリマシタ結果ハドウナリマスカ、元ヘ當然戻ルト云フコトニナルノデアリマスカ、或ハ更ニ法律デ何カノ新ラシイ御定メヲナサレルトニ依リテ勅令ノ結果ヲ變更スルト、斯ウ云フ御考ナデアリマスカ、御同ヒ致シタイ

○政府委員(齋藤直一君) 御答ヘ申上デマスガ、御指摘ノ點ハ、裁判所構成法戰時特例ノ改正デアリマスノデ、裁判所構成法第一條ノ戰時ニ於ケルコト云フ一般規定ガ被ツテ參リマス結果、只今御説ノ如ク改正案第一條ノ二ニ基テ勅令ニ依リマシテ、例ヘバ裁判所ノ設

立ヤ、管轄區域ノ變更ガナサレマシタ事柄モ、矢張り戰時終了ノ際ニハ效力ヲ失フコトニ相成ル次第デゴザイマス、處方裁判所構成法戰時特例ノ附則ニ、戰時終了ノ際ニ於テ、必要ナル經過規定ハ、勅令ヲ以テ之ヲ定メル規定ニ致シテゴザイマスノデ、其ノ時ノ情勢ニ依リマシテ、戰時中勅令ニ基キ行ヒタル裁判所ノ設立トカ、管轄區域ノ變更トカガ、其ノ儘、尙續ケテ行ク必要ガアルヤウナ場合ニハ、此ノ只今ノ附則ノ規定ニ依リマシテ、勅令デ更ニソレヲ繼續スルコトニ相成リ、其ノ後ノ議會ノ開カレマス機會ニ、尙必要ナラバ法律ヲ以テソレヲ更ニ續ケテ行クコトニナル、然ラザル限リハ戰時終了ト共ニ、又元ノ法律ニ依リ設立、管轄區域ノ變更等ノ昔ノ狀態ガ復活スル、斯ウ解釋スベキモノト存ジテ居リマス

○子爵大河内輝耕君 先程ハ福岡ノ御話ヲ伺ヒマシタガ、今ノヤウナコトナラ何デスガ、矢張り福岡へ皆地方協議會ノヤウナ中央部力何カ出來タカラ、其處ヘ持ツテ來ルノダ、決ツテ話デヤナイカ、サウ云フコトモ一ツノ考ヘ方ナシ、斯ウ云フ風ナ御話ノヤウデスガ、裁判所ハ外ノモノト違フカト、少シ其處ヘ違ヒマセヌカ、何處ニアツタツテ宜ササウダシ、何モ司法權ノ獨立ヲ疑フ者デハナイガ、何モ外ノ役所ノ近所ニナクタクツテ済ム役所ノヤウニ思ヒマス、殊ニ東京ノ裁判所ダツテ何カ懸ケ合ノヤウナ違クノ所デモ用ガ濟ンデ居ル、何ダカ少シ餘リ形式ニナリ過ルヤウニ考ヘラレマスケレドモ、如何ナルモノデスカ

○國務大臣(松阪廣政君) 御意見トシテ承ツテ置キマス
○子爵大河内輝耕君 サウ云フ風ニ仰

シヤラナクテモ、ソレトクツ附ケナケレバナラナイト云フ理由ヲ承レバ、ソレ宜シイノデアリマス、地方協議會ノ在ル場所ニ持ツテ行ク方便利ナンダ、サウ云フ理由サヘ承レバソレ宜シイノデス

○國務大臣(松阪廣政君) 其處ガ總テ地方ノ中心地ニナリ、總テノ政策ナリ施策ナリ、政治ガ其處デ行ハレマスカラ、固ヨリ裁判所ヘ行政ノ直接干涉ヲ受ケルモノデハアリマセヌガ、同ジ場所ニアリマシタ方何カニ便宜カト存ジマシテ、サウ云フ考ヘ方モアルト云フコトヲ申上ゲタノデアリマス

○入江貫一君 甚ダ詰ラヌコトヲ伺フヤウデスガ、先程黒崎委員ノ御質問ニ對スル御答ハドウモマダ私ニ腑ニ落ちナイノデス、例ヘバ先程御話ノヤウニ、長崎ノ裁判所ヲ福岡ニ、此ノ法律デ以テ持ツテ來タ、法律ニ依リテ、勅令ニ依リ持ツテ來タ、戰ガ濟ンダラ福岡ノ持ツテ來タ裁判所ト云フモノハナクナルト云フヤウナ御説明ノヤウニ伺フツツノデスガ、戰時中此ノ勅令ニ依ツテ活カサレタモノ、殺サレタモノ、ソレハ法律ニ依ツテ活カサレ殺サレタモノト同ジ效力ガ發生スルノデヤナイカト思フノデスガ、戰ガ濟ンダラ當然ニナクナルノダト云フ御説明ハ、マダ實ハ私ハ腑ニ落ちナイノデスガ、念ノ爲ニモウ一遍……

○政府委員(齋藤直一君) 只今御述ニナリマシタ御考ノ如ク、今回ノ第一條ノ二ノ勅令ニ基キマシテ、裁判所ノ設立ナリ管轄區域ノ變更ガ行ハレマシタコトハ、ソレガ一ツノ處分的ナ法規デアツテ、ソレニ依ツテ設立セラレ、管轄區域ガ變更セラレ、バ、ソレデモ其ノ法規ハ目的ヲ達シテ、其ノ後戰時ガ終

了シテモ、其ノ儘效果ガ續ク、即チ存續要件デハナイト云フ解釋モ固ヨリ取ル餘地ガ十分存在シ得ルト思ツテ居リマスガ、先程申上ゲマシタノハ、此ノ第一條ノ二ノ起案致シマシタ時ノ考ヘ方ガサウ解釋セラレラデアラウト云フコトヲ豫想シテノ考ヘ方デアアル、斯ウ申上ゲマシタノデ、假ニ條文ガ出來マシタ後ノ解釋ト致シマシテ、是ハ決シテ存續要件デハナイノデアリマス、處分ノ效果シカナイノダト云フコトニナリマスレバ、御説ノ通りノ解釋ニ相成ルト思ツテ居リマス、其ノ邊十分研究致シタイト存ジマス

○入江貫一君 尙序ニ
○委員長(男爵渡邊修二君) テヨソト御待チテ願ヒマス、司法大臣ハ、只今衆議院ノ本會議議カラ出席ヲ要求セラレドオイデニナリマスガ、司法大臣ニ對シテ御答ヲ必要トナサル御方ガアリマスレバ、此ノ際早ク御願ヒ致シタイト思ヒマス、特ニ司法大臣ニ此ノ際御質問ガナレバ、司法大臣ハ本會議ノ方ヘイラツシヤリマスガ、宜シウゴザイマスカ、デハ入江君ドウゾ

○入江貫一君 又字句ノ問題デ、極ク詰ラヌコトデアリマスガ、序ニ伺ヒタイ、第八條ノ「裁判所書記ノ事務ヲ取扱ハシムルコト能ハザル場合」ト云フコトニ對シテ、先程大臣ノ御説明ノ中ニ、書記ノ手不足ナドモ生ジ、又缺勤ナドモアツタ場合ト云フヤウナ御言葉ガアツタヤウニ思フノデアリマス、其ノ缺勤ト云フハ唯チヨット病氣デ一日二日缺勤シテモ、斯ウ云フコトニ出來ルト云フ意味デアリマスカ、サウデナイ特定ノ何カ戰時ノ爲ニ差支ガアツタ時ト云フヤウナ意味デアリマセウカ、其處ヲチヨット伺ヒタイノデアリ

マ
○政府委員(齋藤直一君) 御答ヘ申上デマスガ、「裁判所書記差支ノ爲」ト云フ字句ノ解釋ニ相成リマスガ、立案ノ時ノ積リデハ、一般ノ二、戰時中書記ノ應召等ガ非常ニ多イノデ、其ノ補充ガナカク出來兼ネル實情デアリマシテ、只今相當數ノ書記ノ不足ヲ生ジテ居ツタリ致シマス、サウ云フコトノ差支ヘ、或ハ戰災ニ罹リマシタ者ガ一時ニ多數出テ、或裁判所ノ書記ガ數日ニ亙ツテ急ニ差支ヲ生ジタト云フヤウナ場合ヲ主トシテ豫想ハ致シテ居リマスケレドモ、ソレダケデハマダ狹イト思ヒマスノデ、戰時中交通ノ不便等ヲ冒シテ證人ガ態、出テ來タ、處方偶々其ノ喚バレタ豫審係ノ判事ニ附イテ居ル書記ガ、急ニ其ノ日ニ起ツタ病氣デ出テ來ラレナイ、其ノ外ノ事務分配ノ順序ニ從ツテ代理スベキ書記モ、既ニ外デ仕事ニ掛ツテ居ル、其ノ方デモ差支ガアツテ到頭其ノ豫審ノ書記ノ手助けヲスル者ガナイト云フ場合ニ、現行法ノ下ニ於キマス、折角來タ證人ヲ歸シテシマフ、又更メテ日ヲ定メテ出直シテ來ナケレバナラヌト云フヤウナコトニナリマス、ソレハ今日ノ戰局ノ下ノ事情カラ考ヘマシテ、御互ニ面白クナイコトデアリマスノデ、左様ナ場合デモ矢張り此處ニ言フ書記ノ差支ト解シテ此ノ規定ヲ活用サセルノガ宜シイノデアリマス、斯ウ考ヘテ居リマス

○委員長(男爵渡邊修二君) 他ニ御質問ハゴザイマセヌカ……ソレデハ實疑ハ終ラシモノト認メマス、討論ニ入りマス、御發言モナイヤウデゴザイマスカラ、ソレデハ裁判所構成法戰時特例中改正法律案、戰時民事特別法及戰時刑事特別法中改正法律案、此ノ二案

○政府委員(齋藤直一君) 御答ヘ申上デマスガ、御指摘ノ點ハ、裁判所構成法戰時特例ノ改正デアリマスノデ、裁判所構成法第一條ノ戰時ニ於ケルコト云フ一般規定ガ被ツテ參リマス結果、只今御説ノ如ク改正案第一條ノ二ニ基テ勅令ニ依リマシテ、例ヘバ裁判所ノ設

立ヤ、管轄區域ノ變更ガナサレマシタ事柄モ、矢張り戰時終了ノ際ニハ效力ヲ失フコトニ相成ル次第デゴザイマス、處方裁判所構成法戰時特例ノ附則ニ、戰時終了ノ際ニ於テ、必要ナル經過規定ハ、勅令ヲ以テ之ヲ定メル規定ニ致シテゴザイマスノデ、其ノ時ノ情勢ニ依リマシテ、戰時中勅令ニ基キ行ヒタル裁判所ノ設立トカ、管轄區域ノ變更トカガ、其ノ儘、尙續ケテ行ク必要ガアルヤウナ場合ニハ、此ノ只今ノ附則ノ規定ニ依リマシテ、勅令デ更ニソレヲ繼續スルコトニ相成リ、其ノ後ノ議會ノ開カレマス機會ニ、尙必要ナラバ法律ヲ以テソレヲ更ニ續ケテ行クコトニナル、然ラザル限リハ戰時終了ト共ニ、又元ノ法律ニ依リ設立、管轄區域ノ變更等ノ昔ノ狀態ガ復活スル、斯ウ解釋スベキモノト存ジテ居リマス

○子爵大河内輝耕君 先程ハ福岡ノ御話ヲ伺ヒマシタガ、今ノヤウナコトナラ何デスガ、矢張り福岡へ皆地方協議會ノヤウナ中央部力何カ出來タカラ、其處ヘ持ツテ來ルノダ、決ツテ話デヤナイカ、サウ云フコトモ一ツノ考ヘ方ナシ、斯ウ云フ風ナ御話ノヤウデスガ、裁判所ハ外ノモノト違フカト、少シ其處ヘ違ヒマセヌカ、何處ニアツタツテ宜ササウダシ、何モ司法權ノ獨立ヲ疑フ者デハナイガ、何モ外ノ役所ノ近所ニナクタクツテ済ム役所ノヤウニ思ヒマス、殊ニ東京ノ裁判所ダツテ何カ懸ケ合ノヤウナ違クノ所デモ用ガ濟ンデ居ル、何ダカ少シ餘リ形式ニナリ過ルヤウニ考ヘラレマスケレドモ、如何ナルモノデスカ

○國務大臣(松阪廣政君) 御意見トシテ承ツテ置キマス
○子爵大河内輝耕君 サウ云フ風ニ仰

シヤラナクテモ、ソレトクツ附ケナケレバナラナイト云フ理由ヲ承レバ、ソレ宜シイノデアリマス、地方協議會ノ在ル場所ニ持ツテ行ク方便利ナンダ、サウ云フ理由サヘ承レバソレ宜シイノデス

ノ採決ヲ致シマス、原案通り可決スル
コトニ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○委員長(男爵渡邊修二君) 御異議ナ
イト認メマス、ソレデハ委員諸ハ是デ
終リマス、御苦勞様デゴザイマシタ

午後二時四十二分散會

出席者左ノ如シ

委員長 男爵渡邊 修二君

副委員長 子爵高木 正得君

委員

公爵岩倉 具榮君

伯爵山本 清君

子爵大河内輝耕君

光行 次郎君

入江 貫一君

黒崎 定三君

男爵北大路信明君

富田 健治君

中島徳太郎君

岩田 三史君

國務大臣

司法大臣 松阪 廣政君

政府委員

陸軍政務次官 小山邦太郎君

陸軍法務中將 藤井 喜一君

司法次官 黒川 涉君

司法參與官 男爵倉富 鈞君

司法省民事局長 齋藤 直一君

司法省刑事局長 船津 宏君

説明員

陸軍法務大佐 沖 源三郎君

昭和二十年六月二十七日印刷

昭和二十年六月二十八日發行

貴族院事務局

印刷者 印刷局